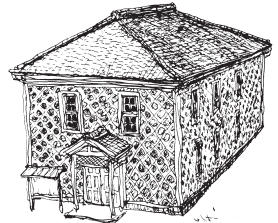


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

あまがいまさゆき
天谷雅行

未来のコモンセンスをつくる

昨年、慶應義塾は私立大学で初めて世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）に採択されました。WPIプログラムは、高度に国際化された研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る国際研究拠点を形成する事業です。本田賢也教授を拠点長として、複雑なヒト生物学、微生物叢の謎を、量子計算と組み合わせることで解明し、新しい生命科学領域を創設する提案です。医学部、理工学部、薬学部が中心となり、キャンパスを越え、分野横断的な活動が展開されます。

また、大学が中心となって未来のありたい社会像を策定し、その実現に向けた研究開発を推進する共創の場形成支援プログラム事業に、二つの提案が採択されています。中村雅也教授を代表とする都市型ヘルスコモンズ共創拠点、田中浩也教授の提案する共生アップサイクル社会共創拠点です。それぞれ、情報、資源を上手に循環させることで、新しい社会の構築を目指しています。

慶應義塾において、これらの研究拠点の強みをより一層伸ば

していくとともに、人文・社会科学系研究を軸としたものも含め、新たな拠点を生み出す仕組みを整え、強化していきます。慶應義塾には、優れた研究を展開しているにもかかわらず、広く認知されていない研究がまだまだたくさんあります。全塾の研究者の研究の魅力を可視化するショーケースを構築し、塾内外から共同研究が生まれ、新たな融合領域が醸成される機会を増やしていきます。さらに、研究成果を社会に還元し、実装化するための支援体制を強化し、産学連携を推進するとともに、スタートアップの創出・成長を加速していきます。

人々の共通認識であるコモンセンスは時代とともに変遷してきました。今まで非常識であったことが、科学技術の進歩とともに常識に変わることも珍しくありません。現在、過去に例をみない速度で、コモンセンスが変化し続けています。慶應義塾は、総合大学であることを最大限生かし、信頼に基づき人々に心から受容される、未来のコモンセンスをつくる研究大学へと発展することが期待されています。